

由井 浩

春の昭和記念公園

4月中旬に東京・立川にある昭和記念公園に行った。この春東京の桜は平年より少し早く咲き始めたが、3月後半から4月初旬にかけて気温が低かったために花が長持ちした。そのおかげで都内各所の桜の花見を堪能することができたので、昭和記念公園ではチューリップなどの桜以外の春の花をゆっくり眺めることにした。

広いこの公園の中心部にある溪流広場ではチューリップの見頃が始まっていて、土曜日で好天に恵まれたこともあって大勢の来園者が集まっていた。



この広場は、チューリップが直線的に植えられているところは少なく、水の流れも意識して曲線を描いて植えられていたり、木の根元近くに楕円形や扇形に植えられていたりして、造形の変化に富んでいる。

また、チューリップの赤、黄、白、ピンクなどの色とりどりの花と間を埋めているムスカリの青い小さい花が葉と芝生の緑に映えて、色彩もとても豊かである。

この広場の造園の設計は広い敷地の全体構成とチューリップの色や水の流れなどを意識した隅々までの細部のデザインの両方を考え抜く必要があり、設計者達の苦労は大変だったことと想像される。

“チューリップ見頃始まる”との情報に誘われてこの日溪流広場に集まった大勢の人達の感嘆の声を聞いて、設計者達も達成感に浸ったことだろう。



最近人気のネモフィラの花をこの公園でも何ヶ所かで見ることができた。まだ咲き始めの時期で、丘全体がこの花で淡青に染まるという光景は見られなかったが、小さい花をじっくり眺めると一つ一つの花が自分の季節の到来を喜んでいるようであった。

←ネモフィラ

十年くらい前から春に公園や川辺の草むらに咲くムラサキハナナ（紫花菜）と呼ばれる紫色の花を気にかけていた。昭和記念公園でもこの花が桜の木の根元などの草むらに咲いていた。遠くから見ると葉の緑と花の紫の集合体としか判別できないが、近づいてよく見ると、スッキリと伸びた茎の先に直径2~3cmの十字型の紫色の花が咲いている姿がよくわかり、この花独特の雰囲気を楽しむことができた。



ムラサキハナナ

溪流広場の東側に広がる“みんなの原っぱ”の西側にある菜の花畑では、人の背丈ほどに伸びた茎の先に咲いている菜の花が原っぱにいる大勢の家族連れや若者達に「思い切り楽しく遊びましょう！」と話しかけているようだった。

